

平成24年度新しい公共の場づくりのためのモデル事業

いわて文化支援ネットワーク通信
アシスト・なう

7号

発行日
平成25年3月1日

発行: 特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター / 印刷: 杜陵高速印刷株式会社

- 1~3面 トヨタ子どもとアーティストの出会い in 宮古市立鍬ヶ崎小学校、大槌町立大槌小学校 / 大槌北小学校 / 安渡小学校 / 赤浜小学校
- 4面 情報、IASC事務所便り

トヨタ子どもとアーティストの出会い

「トヨタ・子どもとアーティストの出会い」とは?

次代を担う子どもたちがアーティストとの出会いを通じて、“多様な価値観を認め合う力や豊かな感性を育む”ことを目的に、2004年よりトヨタ自動車とNPO、現地実行委員会が連携し実施してきました。

2012年度は、いわて文化支援ネットワークが企画した2つのプログラムを、被災地の5つの小学校を対象に実施しました。事業報告とともに、被災地の子どもたちの“いま”をお伝えします。



宮古市立鍬ヶ崎小学校

2012年12月13日(木)~2013年3月1日(金)

宮古湾に面した鍬ヶ崎は、漁港として栄えたまちです。海のそばの高台の小学校。学区内には、国立公園「浄土ヶ浜」の美しい風景があり、夏は観光客で賑わいました。しかし、3.11の津波被害により、まちの風景は一変しました。学校の校庭の脇に建った仮設住宅。荒涼とした更地が子どもたちの通学路です。2012年夏、NGOや関西の大学生の支援協力でここにドーム型の不思議な建物が建ちました。公民館を失った鍬ヶ崎にとって、住民が

寄り合って活動できる場として「オデンセ(方言で“いらっしゃい”)という名前が付けました。「この真っ白な壁面に、子どもたちの絵があったらいいな」誰からともなく出たそんなつぶやきから、今回のプロジェクトはスタートしました。



ちょっと恐いと思っていた魚市場のオジサン。でも、ちゃんと質問に答えてくれました。

ドームのデザインのテーマは「鍬ヶ崎の四季」と決まり、この日は5年生43人の子どもたちが、地域の人たちにインタビューに出かけました。仮設商店、仮設住宅、魚市場、浄土ヶ浜まで足を延ばし、みなさんからお話を伺いました。子どもたちの質問は、決してスラスラと出てくるものではありませんが、鍬ヶ崎には、ゆったりとした笑顔の時間が流れていました。



内陸の雪景色がウソのように、沿岸部の十二月は気候も穏やかです。

大槌町立大槌小学校／大槌北小学校／安渡小学校／赤浜小学校

東日本大震災の被災から2年間、4校は合同仮設小学校を学び舎としてきました。津波の被害を受けた赤浜小はすでに取り壊され、大槌北、安渡小も取り壊しを待つ状態。大槌小は修理されて大槌町役場になりました。新年度からは、「大槌小学校」として4校が統合され、校歌も新しくなります。そこで、廃校になる四つの小学校(児童数438人)が合同で、各校の校歌を演奏・収録し、1枚のCDにして後世に残すことになりました。

■指導アーティスト：寺崎巖さん(いわてフィルハーモニー代表) ■ヴァイオリン：井上静香さん/直江智子さん/伊禮しおりさん/斎藤弦さん ■ヴィオラ：大島亮さん/藤澤秀子さん ■チェロ：門脇大樹さん



2月25日(月)、いわてフィルの7人の演奏者と各学校の音楽担当教諭のピアノ伴奏の合わせでスタートしました。音のチェックやテンポの確認などする中で、大槌北小学校の原譜の流出で一部楽譜不明の箇所があり、歌唱から採譜して楽譜を復活させました。先生たちからは「そうです！そうです！」と拍手がおこり、感動的な瞬間でした。

その後いよいよ各校のリハーサルが行われました。最初に楽器演奏でメロディを聴いてもらいましたが、後から「あまりに美しいメロディで、それに合わせて歌うのがためらわれた」との声も聞かれました。それでも何度か練習を重ね、歌詞の内容に触れ、校歌と郷土



の関係について考えながら歌ううちに、子どもたちとオーケストラの一体感が生まれていきました。放課後は、先生のための癒しのコンサートを開催。一流の演奏家による、心の奥底にしみこむようなドビュッシーの幻想的な四重奏曲や楽しい気持ちを誘うモーツァルトやヴォルフのイタリアンセレ



ナーデは、心が晴れやかになりました。先生方の「もっと聴いてほしい」という実感のこもったコメントが忘れられません。事前調査で先生たちから希望のあったこの支援プログラムはとても有意義だったと思います。26日はいよいよ録音作業です。人数の少なかつた赤浜小学校には卒業生の中学生も応援に駆け付け、地域の絆を感じました。オーケストラと歌声が一体化し、4校とも素晴らしい合唱となりました。最後は2年生の音楽の授業で、現在のカリキュラムに沿ったリクエストがあり、それに合わせた編曲での鑑賞やヴィヴァルディ四季を生演奏でクイズ形式に学びました。鍵盤ハーモニカの合同合奏も行いました。

26日はいよいよ録音作業です。人数の少なかつた赤浜小学校には卒業生の中学生も応援に駆け付け、地域の絆を感じました。オーケストラと歌声が一体化し、4校とも素晴らしい合唱となりました。最後は2年生の音楽の授業で、現在のカリキュラムに沿ったリクエストがあり、それに合わせた編曲での鑑賞やヴィヴァルディ四季を生演奏でクイズ形式に学びました。鍵盤ハーモニカの合同合奏も行いました。

現場録音は、文化支援ネットワークで支援リーダーとして活動している「アクト・ディヴァイス」(盛岡市)にお願いしました。CD製作は宮古市末広町のイーストベイスタジオに委託しました。オーナーはレコーディングエンジニアとして中央で活躍し、その後故郷である宮古市に念願のスタジオを開設。精力的に岩手から音楽発信をしようとして活動していました。しかし東日本大震災で店舗1階が水没する被害を受け、現在は再開したスタジオで頑張っています。児童438人の歌声を収めたCDは3月23日の閉校式で児童、卒業生に配られます。



指導アーティストは彫刻家であり舞台美術家の長内努さんです。



＜みんなの感想文＞

- みんなでがんばった絵がすごくきれいでした。
- 完成した絵を見てボクは、鎌ヶ崎のみりよくやしい所がかけたのがすごくうれしかった。
- 全校のみんながいるオレンジのガベはにぎやかで、やっぱり鎌小のながまは楽しいなと思いました。
- ちいきの人もすごくよこんでいたし、なんかすごくうれしかった。
- この絵がちいきの人の心に残ってくれればいいな。鎌ヶ崎もつとあたたがいちいきになればいいな。
- オテンセの絵が鎌ヶ崎の有名な物の一つになればうれしいな。やっつよがった。
- 時がたってもこの絵を見て、今日のことを思い出したいです。
- 真っ白だったオテンセが一気に明るくなって「おお…☆☆」となりました。
- ほくはオテンセにお茶を飲みに行きたいです。コーヒーも飲んでみたいです。
- 地域の方が「とてもきれいな作品だね」とが「がんばってくれてありがとう」と言ってくれてうれしかった。
- 完成した絵はパーフェクトでした。なににもかけていないので最高でした。



1年生から6年生まで。全校で作ったオリジナルシールが貼られたオレンジの壁面が、みんな大好きです。

▼**提言書発行予定!**

「提言・暮らしに寄り添う文化芸術の復興を!」をテーマに、いわて文化支援ネットワークでは、震災後からこれまでの活動から見えてきたことを提言としてまとめ冊子として発行します。

この提言書は、東日本大震災からの復興を目指す沿岸被災地のみならず、震災とその復興活動から得た教訓を踏まえ、被災地以外の地域文化のあり方に言及し、かつ今後の文化芸術のあり方を論ずるものとして、これまで開催された熟議やフォーラム等の議論から導かれたものを事務局で執筆、また被災地の声として文化活動に携わる様々な方からも寄稿をお願いし、4月中旬を目途に各関係機関、市民の皆様へ配布する予定です。



「絵本プロジェクトが贈る絵本原画展」

会 期 2013年3月8日(金)～5月12日(日)
 会 場 盛岡市中央公民館第1企画展示室
 開場時間 9:00～17:00(入場は16:30まで)
 入 場 料 500円 ※中学生以下無料
 (うち300円は絵本による支援活動に充てられます)

絵本プロジェクトいわての足跡を綴った本「一冊の本をあなたに～3.11絵本プロジェクトいわての物語」が出版されました!
 著者はノンフィクションライターの歌代幸子さんです。

- ▲「3.11絵本プロジェクトいわて」は東日本大震災後いち早く被災地の子どもたちに絵本を届けるために活動を開始し、現在までに5826箱、計23万冊の絵本が全国から寄せられ、すでに275カ所に10万冊を超える絵本を届けてきました。このプロジェクトに関わってきたボランティアはのべ4,000人へのぼります。
- ▲このたびの原画展では、絵本プロジェクト代表末盛千枝子さんが個人所有の絵本原画等を中心に展示します。また皇后美智子さま所蔵の『橋をかける』『パーセルより』などの表紙や口絵の原画など、貴重な作品の数々も展示されます。

IASC事務所便り

先日、25年ぶりに母校である鉾ヶ崎小学校の校舎に足を踏み入れました。

体育館も薄暗い階段前に飾ってあった絵画も思っていたより小さく感じましたが、私に通っていた頃と殆ど同じで安心しました。しかし、下校する子供たちをいつかの自分と重なってしまい、もしかしたら私が彼らだったのかもしれないと思うと、やはりなんとも言えない気持ちになります。

特集記事の鉾ヶ崎小学校5年生のみんなが作ったODENSE2号の壁紙の鮮やかな色合いは、小学校の裏門からものはつきりと見えて、鉾ヶ崎の新しい景色に。私の子供時代の景色は消えてしまいました。こうして子供たちがまた少しずつ新しい景色を作っていくといいのだと思いつつ母校を後にしました。

(澤田)

編集後記

東日本大震災から2年が経ち未だ復興の槌音はかすかですが、まなざしを未来に向けた子どもたちの笑顔があります。いわて文化支援ネットワークでは今後も被災地の子どもたちの文化活動の支援にも心を寄せていきたいと思えます。

いわて文化支援ネットワーク

〒020-0878 岩手県盛岡市肴町4-20永卯ビル3F
 NPO法人いわてアートサポートセンター内
 ☎019-604-9020
 E-mail: arts@ictnet.ne.jp
 http://ibsn.web.fc2.com/

●支援金振込先(振り込み手数料は負担願います)

■みずほ銀行 盛岡支店(普) 1190698*

■ゆうちょ銀行 店名【八三八】(普) 0808732*

※いずれも口座名:いわて文化支援ネットワーク

■岩手銀行 中ノ橋支店(普) 2044173

口座名:いわてアートサポートセンター文化支援 代表 瀬川君雄

現在の支援金総額 **8,466,754円** (平成25年3月8日現在)

ご支援、ご協力ありがとうございます。